

「平成 29 年度 学校に関するアンケート」結果と分析

1. 実施について

- (1) 実施時期 平成 29 年 12 月
- (2) 実施方法 アンケート調査（保護者 25 項目、教職員 50 項目）
- (3) 回答項目 「A あてはまる B あてはまらない C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない E わからない」の 5 項目
- (4) 回収率 保護者 74%（+11 ポイント）
内訳：小 82%、中 71%、高 69%
教職員 95%（+2 ポイント）
内訳：小 100%、中 100%、高 89%、行政 100%
- (5) 分析方法 回答中 AB を肯定的な意見、CD を否定的な意見として分析した。

2. 概要

保護者対象のアンケートでは、いじめに関する項目（質問 14）を新たに設け、合計 25 項目となっており、質問 14 以外は昨年度と同様の内容で行った。回収率について、今年度は PTA の協力もあり、74%と昨年度に比べ 11 ポイント上昇した。また回答結果については、ほとんどの項目において肯定的意見が 8 割以上であり、本校の教育活動について肯定的に受け止めていただいていると考えられる。

一方、教職員対象アンケートでは、項目について保護者対象アンケートと同様、いじめに関する項目（質問 12）を新たに設け、それ以外は昨年度同様の内容で合計 50 項目とした。回収率は、高等部に課題が見られるものの、全体としては 95%と昨年度に比べ 2 ポイント増加している。回答結果については、大きく変化の見られた項目（±10 ポイント以上）はなく、全体として昨年度と近い傾向にあると捉えることができる。なお、行政の回答の多くは「E:わからない」を占めており、設問自体の見直しを図る必要があるかもしれない。

3. 結果と分析

(1) 学校に対する意識に関するもの

保護者は「子どもは、学校に行くことを楽しみにしている」「学校は、教育方針をわかりやすく伝えている」の項目で、それぞれ 87%（-4 ポイント）、94%（-1 ポイント）と昨年度より若干の減少が見られるものの、高評価だった。引き続き、児童生徒や保護者の願いに応えられるよう邁進していきたい。

(2) 学習指導・教育活動に関するもの

保護者対象のアンケート項目「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている（感じている）」は、今年度のアンケートで最もポイントが下がった項目で、昨年度より全体で 7 ポイント下がり 79% だった。また、否定的意見が 7% であり、「分からない」と答えている保護者が 14% となっていることから、保護者に授業を知っていただくための取り組みや、子どもが分かる・楽しい授業になるよう授業力や専門性の向上を図り、より開かれた学校作りをしていく必要があると思われる。

教職員の「教員間で授業見学をし、授業方法等について検討する機会がある。」に関しては、55% と昨年度より 8 ポイント増加しているものの、結果としては高評価を得ているとはまだまだ言えない。全校での取り組みである公開授業週間が 1 月に行われるが、アンケート時期が公開授業週間より前になっていることで、アンケート結果に反映されていないと捉えることもできる。しかし、経験年数の少ない教職員の授業力や専門性向上にも大きく関わってくるところであり、また毎年、他学部・他学年の授業を見学したいという旨の意見があることから、今後の公開授業週間の有り方について早急に検討したい。

(3) 生徒指導に関するもの

「学校の児童生徒指導の方針に共感できる」について、保護者からは肯定的意見が 95% と非常に高い評価をいただいている。

教職員では、「コンピュータ等の ICT 機器が各教科の授業などで活用されている」が、昨年度に引き続き 8 割以上の高い評価を得ている。ICT 機器の活用が広く普及してきたと捉えることができるが、一方、自由記述で、大型 TV などのモニターが足りないという指摘もされている。ICT 機器のさらなる活用を図るため、例えば、全てのクラスにモニターを設置していくといったような計画的な環境整備が求められる。

(4) 進路指導に関するもの

保護者対象の項目「学校は子どもの将来の進路や職業などについて、発達段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている」では、全体で 82% と多くの肯定的評価を得ている。各学部

の内訳として、やはり学部が進むにつれ肯定的意見が増加する傾向が見られる。進路指導部による他学部の授業見学会や進路説明会、施設見学会などの進路に関する様々な取り組みが、8割以上の肯定的意見を得ている一端と推察される。引き続き、各学部や発達段階に応じた進路指導について、保護者への説明・共通理解をはかっていき、学部による評価の差を減らしていきたい。

(5) いじめに関するもの

保護者対象「学校は、いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」、教職員対象「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」に関する項目はそれぞれ、ともに今年度より新たに設けた設問である。保護者の結果は、肯定的意見が71%、否定的意見が3%、分からないが26%であり、その他の項目と比べると、“分からない”が突出して多くなっている。「学校は、子どもについて保護者の悩みや相談に適切に対応してくれる」の項目で93%と高評価を得ており、いじめに関しても同じ様に対応してもらえると考えられている保護者が肯定的意見として回答されたと推察される。また、“分からない”を回答された26%の保護者は、いじめについて対応してもらったことがなく、学校の対応が文字通り分からないと感じていることが結果に反映されているのではないかと考えられる。一方、教職員の結果は、肯定的意見が58%、否定的意見が21%、わからないが20%であった。平成26年度に制定した「学校いじめ防止基本方針」を今年度4月に改訂したばかりではあるものの、教職員へ広く周知されていなかったことが今回の結果の一因として考えられるため、改めて職員会議や部会等を通して教職員への周知を徹底したい。

(6) 道徳教育・人権教育に関するもの

保護者は「学校は、子どもの発達段階や実態に応じて、生命を大切にできる心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」、「教職員は、日常の教育活動において、子どもの人権を十分に尊重している」において、一昨年度・昨年度に引き続き、肯定的意見が90%以上と高評価を得ている。

教職員では、「道徳教育は、日常の教育活動の中で、常に意識して行われている。」「体罰等の防止をはじめ、すべての教育活動が、人権尊重の姿勢に基づいて行われている。」「児童生徒の実態に基づいた人権教育の課題を設定し、推進のため取り組んでいる。」は、肯定的意見が約8割程度で、昨年度に比べ3～7ポイント増と増加傾向が見られた。管理職からの啓発や人権研修等から、教育現場に人権を尊重する意識が広く浸透しているものと思われる。

(7) 情報提供に関するもの

「学習の内容や学校生活の様子を授業参観、懇談、学年便り、連絡帳等によって知ることができている」「学校は、教育情報について、提供の努力をしている」「学校は、台風や地震などの場合の対応について、児童生徒や保護者に行動マニュアルを示している」「学校から保護者に出される文書等は、適切でわかりやすい」は、昨年度と同様に肯定的意見が9割以上と保護者から高評価を得ている。しかし、配付プリントが多すぎるというご意見も毎年出ており、配付するプリントについて、改めて分掌や部、学年で確認し精査する必要がある。また、「学校は台風や地震などの場合の対応について行動マニュアルを示している」においては、98%と高評価を得ているが、自由記述欄から、学校が臨時休校になる場合だけでなく、通常通り行う場合にも連絡が欲しいという意見も毎年出ていることもあり、緊急メールの運営方法についても改めて検討したい。

「学校は、ホームページを通して情報をわかりやすく発信している」は、昨年度同様の88%と高評価を得ている。今年度はホームページの定期的な更新やブログの更新に加えて、レイアウトを変更したり、PTAやICT活用事例集のページを新設したり、トップページの掲示板を活用した。より良いホームページをめざして工夫していることを評価がされていると考えられる。

(8) 学校教育への保護者の参画に関するもの

「学校は、保護者が授業を参観する機会を十分に設けている」「学校の授業参観や学校行事に進んで参加している」「学校では、PTA活動が活発に行われている」は、どれも肯定的意見が88%~91%と高評価を得ている。しかし、参観については、「授業以外での学校生活での様子を見たい」といった意見も毎年あるため、授業参観の内容や持ち方について保護者の意見も交えつつ工夫していきたい。

(9) 児童生徒理解に関するもの

保護者は「教職員は、子どもの障がいについて、よく理解している」「通知表(あゆみ)は、子どもの成長の様子(学習の達成度)がよくわかるように工夫されている」「運動会、学習発表会、学習展示会や校外学習、宿泊学習、修学旅行などの学校行事は、子どもたちが参加しやすいよう工夫されている」は、昨年度に引き続き、すべての項目において肯定的意見が90%以上と高評価を得ている。今後も、児童生徒一人ひとりの理解に努め、必要とされる学習内容・方法や支援を「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」等の活用と併せて、保護者や関連機関と連携し、共有していきたい。

教職員も「個別の指導計画、個別の教育支援計画について、本人・保護者のニーズを踏まえて作成している。」「個別の指導計画、個別の教育支援計画は、保護者に開示し、説明している」のすべての項目において、肯定的意見が90%以上であった。

(10) 教育環境に関するもの

保護者からは「学校は、子どもについての保護者の悩みや相談に適切に応じている」「学校給食のメニューは工夫がされている」「学校通学バスは、スムーズに運行されている」は、すべての項目で肯定的意見が90%以上の高評価である。なお、通学バスについては、自由記述欄にて添乗員の増員を求める声が複数あがっている。

また、学校の施設・設備面での満足度は保護者からは83%と、昨年度に引き続き、80%以上の評価を得ているものの否定的意見が13%と他項目と比べると高い。一方、教職員の「この学校では、児童生徒の教育環境が整備され、施設・設備の拡充が見通しをもって計画されている」の肯定的意見が46%であり、昨年度より7ポイント下がった。同じく「各教科の備品や教材教具が適切に配置され、活用されている」も肯定的意見が4ポイント減の64%と高くない。施設・設備については、枚方支援学校開校後に一度減少した児童生徒数が、年々増加傾向を辿っていることで、教室を学部ごとにまとめることができず、また学年内でも離れた場所にホームルームを作らざるをえない学部もあり、教室調整が年々困難になってきている。特別教室をホームルームに転用したり、圧縮クラスを設けたりするなどの工夫で対応はしているものの、この先も児童生徒数が増加傾向にあるため、次年度やそれ以降の施設・設備について不安な気持ちが反映されていることが一因として考えられる。教材教具については、各学部や教科で教材教具をデータベース化するなど、誰もが何処に何があるかが分かるようにする必要がある。

(11) 学校組織に関するもの

教職員の「学校教育のあらゆる場を通じて防災教育を行っている」については、肯定的意見が昨年度より4ポイント増で79%だった。今年度、大阪府の学校防災アドバイザー派遣事業を活用した防災アドバイザーを招聘しての研修会や、避難所宿泊体験等の活動に取り組んだ。また、夏の研修交流会や部研修でも防災を題材としたものが取り上げられている。防災が、自分たちにとって身近なものであるということが教職員に浸透してきたことの表れだと推察される。

校内人事や校務分掌の分担、各分掌や各部・各学年の連携、職員会議の運営等、肯定的意見が55%~71%と高くはないが、昨年度と比べると5~11ポイント上がっている。年度途中より職員会議の開催場所を職員室に変更したことにより、“働き方改革”や“ペーパーレス化”に繋がり、業務の軽減にもなった。

「校長は、自らの教育理念や学校経営についての考え方を明らかにし、リーダーシップを発揮している」については、肯定的意見が68%と高くない。職員会議等での周知や定期的な校長室便り配付、さらには教職員との日常的なコミュニケーション等を通じ、学校経営方針を教職員全体にいっそう浸透させたい。

「初任者等、経験の少ない教職員が成長していけるよう校内研修等が工夫されている」は、肯定的意見が68%と8ポイント増加した。今年度も、「パッケージ研修支援」の活用等、校内研修体制の確立とともに教職経験の少ない教員の授業力向上に向けた支援を行った。学校全体として教職経験の少ない教員をバックアップしていく体制の確立を進めていくとともに、学部や分掌等の各部署での取り組みも進めていかなければならない。

「公文書の収受、発送、保管や保護者あて公文書の発行にあたるシステムが整っている。」

「指導要録等の記入・点検が年度内に適正に行われている。」は、肯定的意見がともに80%であり、前者が昨年度より6ポイント増、後者がプラスマイナス0ポイントだった。また、“分からない”と回答した教職員がそれぞれ12%、15%おり、こちらも昨年度より減少している。体制は整ってはいるものの、経験年数の少ない教職員が増えてきていることもあり、公文書の扱いに関することや、指導要録に関することについては、全教職員に周知できるように、マニュアル化や講習会の実施等、組織的に取り組んでいきたい。

「研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられている」は、肯定的意見が6%増で71%となった。地域・校内支援部による管外出張の伝達講習会や、各学部で行っている部研修等、研修に行っただけで学んできたことを伝達することが浸透してきたものと捉えることができる。